

基本施策 G 4 芸術文化あふれる暮らしを創出します

主管課：文化振興課

個別施策

G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します

G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります

ア 施策の目的

市民が、芸術文化に親しみ、心豊かに生活している。

イ 基本施策の評価

C d 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3	
芸術文化を鑑賞する市民の割合	45.6% (26年度)	↑	目標値	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%
			実績値	54.2%	53.7%	51.2%	42.5%	
			達成率	109.5%	108.5%	103.4%	85.9%	
芸術文化活動を行う市民の割合	15.1% (26年度)	↑	目標値	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%
			実績値	19.8%	18.3%	18.6%	19.5%	
			達成率	104.8%	96.8%	98.4%	103.2%	

エ 評価結果の妥当性

(1) 本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に対する意見

- (1) 基本施策の成果指標である芸術文化を鑑賞する市民の割合が、コロナの影響により減少に転じたのはやむを得ないと考える一方で、自ら活動を行う市民の割合が増加したことを評価して良いのではないかと。
- (2) 基本施策の成果指標において、「芸術文化」の定義が回答者に委ねられていることから、意図した数値を集計できていない可能性があるのではないかと。
- (3) 各評価において、文化関係者の生の声や現場の課題が見えてこない。施策を進める上で、進行管理を行うだけでなく、市民と協働する姿勢がもっと必要なのではないかと。
- (4) マダムバタフライ関連事業は、長崎の個性ある芸術文化事業として大きな意味を持っている。2025年に長崎で開催される国民文化祭も視野に、本事業の拡充を期待する。
- (5) G4-2の成果指標である市民文化団体の所属者数については、一貫して達成率が低いことから、目標値を高く設定し過ぎているのではないかと。
- (6) 市民文化団体の登録者数の減少は、コロナの影響を受ける前からの現象である。登録

することのメリットや登録の必要性について、もっと周知する必要があるのではないか。

カ 審議会における施策推進に向けた提言

- (1) 基本施策に掲げる「芸術文化あふれる暮らし」に向けて、いくつかの試みがなされているが、成果を上げるのはなかなか難しいので、粘り強く、さらに市民を巻き込んだ継続した取組みが期待される。
- (2) コロナ禍において、コンサートの開催や芸術・文化活動等が予定どおり実施できない現状ではあるが、新しい生活様式やオンライン活用による事業展開を進めていただきたい。
- (3) 近年、年次有給休暇の確実な取得が義務付けられたところであるが、文化芸術活動等の趣味を理由に年休を取得することに抵抗感を感じている人もいるようである。例えば、企業との連携により、社員向けの年休取得促進のPRと文化芸術活動のPRをリンクして周知してはどうか。
- (4) 動画等のコンテンツ作成やVRを用いた文化体験等の機会の創出について、今後の方向性の中に反映させていくことが重要ではないか。
- (5) 文化活動を行うための練習場が圧倒的に不足しているので、利用時間の延長を含む既存施設のさらなる有効活用や民間施設の借上げ等による活動空間の確保を早急に行っていただきたい。
- (6) 芸術文化活動の活性化においては、長崎の若者の活動・表現の場を確保し、継承していくことが大切であるため、芸術文化団体との情報交換等の協力体制を図り、市民の理解・共感を得ていく工夫が必要である。
- (7) 市民参加舞台は、長崎市の文化事業の象徴的な好事例であり、市民ミュージカルの中には、舞台芸術としての水準も高く、文化関係者から高い評価を得ているものもある。コロナの影響はあったとしても、規模縮小することなく実施できるよう、しっかりと支援を継続していただきたい。